

# Oracle® Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0

## クイックスタートガイド



Part No. E23685-02  
2011 年 7 月、Revision A

Copyright © 2009, 2010, 2011, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリパース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション (人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む) への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性 (redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle と Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

AMD, Opteron, AMD ロゴ, AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。Intel, Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は X/Open Company, Ltd. からライセンスされている登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。



リサイクル  
してください



Adobe PostScript

# 目次

---

このマニュアルの使用方法	v
▼ 製品ソフトウェアとファームウェアをダウンロードする	vii
Oracle ILOM 3.0 – クイックスタート	1
出荷時のデフォルト設定	2
必須のセットアップタスク	3
▼ Oracle ILOM に接続する	3
▼ Oracle ILOM にログインする	5
▼ Oracle ILOM に新しいユーザーを追加する	6
省略可能なセットアップタスク	10
▼ わかりやすいシステム識別ラベルを設定する	10
▼ デフォルトのネットワーク設定を変更する	11
▼ リモート KVMs を使用してソフトウェアをインストールする	14
日常的な管理タスク	15
▼ システムステータスの監視と障害を表示する	16
▼ システムコンポーネントの障害状態をクリアする	17
▼ システムイベントログを表示およびクリアする	18
▼ システムの消費電力を監視する	19
▼ SPARC サーバーの電力ポリシーを管理する	20
▼ サーバーコンポーネントの電力割り当てを監視する	21
▼ ブレードシャーシコンポーネントの電力割り当てを監視する	23

## 通常の保守タスク 24

- ▼ ロケータ LED を使用して Oracle Sun サーバーを特定する 24
- ▼ ホストサーバーの電力状態を管理する 25
- ▼ Oracle ILOM ファームウェアを更新する 27
- ▼ Oracle ILOM をリセットする 29

## 初期設定の FAQ 29

# このマニュアルの使用方法

---

このガイドでは、Oracle Sun サーバーと Oracle Sun ブレードシャーシシステムをリモート管理できるように、Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 ファームウェアを起動および実行する方法について説明します。このガイドでは Oracle ILOM を初めて使用するときに必要な詳細情報のみを提供しており、より掘り下げた情報、「関連情報」の項に記載されている概念ガイドと手順ガイドのトピックを参照してください。

このガイドと、Oracle ILOM 3.0 Documentation Library の他のガイドを組み合わせで使用してください。このガイドは、技術者、システム管理者、Oracle の認定サービスプロバイダ、およびシステムハードウェアの管理の経験を持つユーザーを対象にしています。

- [vi](#) ページの「ドキュメントとフィードバック」
- [vii](#) ページの「製品のダウンロード」
- [viii](#) ページの「Oracle ILOM 3.0 ファームウェアのバージョン番号方式」
- [ix](#) ページの「ドキュメント、サポート、およびトレーニング」

# ドキュメントとフィードバック

Oracle ILOM 3.0 Documentation Library は次の URL でダウンロードできます。  
(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=E19860-01&id=homepage>)

用途	タイトル	形式
オンラインドキュメント セット	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 HTML のマニュアルセット』	HTML
クイックスタート	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 クイックスタートガイド』	PDF
リモート KVMS	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 リモートリダイレクションコン ソール – CLI および Web ガイド』	PDF
日常的な管理機能	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 – 概念ガイド』	PDF
日常的な管理の Web による 手順	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 – Web 手順ガイド』	PDF
日常的な管理の CLI による 手順	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 – CLI 手順ガイド』	PDF
プロトコル管理	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 プロトコル管理 – SNMP、IPMI、 CIM、WS-MAN ガイド』	PDF
CMM 管理	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CMM 管理 – Sun Blade 6000/Sun Blade 6048 モジュラーシステムガイド』	PDF
保守と診断	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 保守と診断 – CLI および Web ガイド』	PDF
最新情報	『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 機能更新およびリリースノート』	PDF

このドキュメントについてのフィードバックは次の URL からお寄せください。  
(<http://www.oracle.com/goto/docfeedback>)

---

# 製品のダウンロード

Oracle ILOM 3.0 ファームウェアの更新はスタンドアロンソフトウェアの更新で入手できます。スタンドアロンソフトウェアは、各 Sun サーバーまたは Sun ブレードシャーシシステム用の My Oracle Support (MOS) Web サイトからダウンロードできます。MOS Web サイトからこれらのソフトウェアの更新をダウンロードするには、次の手順を参照してください。

## ▼ 製品ソフトウェアとファームウェアをダウンロードする

1. (<http://support.oracle.com>) にアクセスします。
2. My Oracle Support にサインインします。
3. ページの上部で、「Patches and Updates (パッチと更新)」タブをクリックします。
4. 「Patches Search (パッチ検索)」ボックスで「Product or Family (Advanced Search) (製品またはファミリー (詳細検索))」を選択します。
5. 「Product? Is (製品)」フィールドに、「Sun Fire X4470」など、製品名のすべてまたは一部を入力すると、一致する製品のリストが表示されます。目的の製品を選択します。
6. Is (リリース)」プルダウンリストの下矢印をクリックします。
7. 表示されるウィンドウの製品フォルダアイコンの横にある三角形 (>) をクリックすると選択肢が表示されます。目的のリリースを選択します。
8. 「Patches Search (パッチ検索)」ボックスの「Search (検索)」をクリックします。製品ダウンロード (パッチ) のリストが表示されます。
9. Sun Fire X4470 SW 1.1 リリースの Oracle ILOM や BIOS 部の Patch 10266805 など、目的のパッチ名を選択します。
10. 表示される右側のペインにある「Download (ダウンロード)」をクリックします。

---

# Oracle ILOM 3.0 ファームウェアのバージョン番号方式

Oracle ILOM 3.0 では、現在お使いのサーバーまたは Chassis Monitoring Module (CMM) で実行しているファームウェアバージョンを識別しやすいファームウェアバージョンの番号方式を使用しています。この番号方式では、5つのフィールドがある文字列を使用しています。たとえば、a.b.c.d.e となります。

- a – Oracle ILOM のメジャーバージョンを示します。
- b – Oracle ILOM のマイナーバージョンを示します。
- c – Oracle ILOM の更新バージョンを示します。
- d – Oracle ILOM のマイクロバージョンを示します。マイクロバージョンは、プラットフォームまたはプラットフォームのグループ単位で管理されます。詳細は、使用しているプラットフォームの製品ノートを参照してください。
- e – Oracle ILOM のナノバージョンを示します。ナノバージョンは、マイクロバージョンの増分反復です。

たとえば、Oracle ILOM 3.1.2.1.a の意味は、次のとおりです。

- Oracle ILOM 3 はメジャーバージョンです
- Oracle ILOM 3.1 はマイナーバージョンです
- Oracle ILOM 3.1.2 は2つ目の更新バージョンです
- Oracle ILOM 3.1.2.1 はマイクロバージョンです
- Oracle ILOM 3.1.2.1.a は3.1.2.1のナノバージョンです

---

ヒント – お使いの Sun サーバーまたは CMM にインストールされている Oracle ILOM ファームウェアを確認するには、Web インタフェースで「System Information」->「Versions」をクリックするか、コマンドラインインタフェースで version と入力します。

---

---

# ドキュメント、サポート、およびトレーニング

これらの Web サイトでは追加リソースを提供しています。

- ドキュメント (<http://www.oracle.com/technetwork/indexes/documentation/index.html>)
- サポート (<https://support.oracle.com>)
- トレーニング (<https://education.oracle.com>)



# Oracle ILOM 3.0 – クイックスタート

---

説明	リンク
出荷時のデフォルト	<ul style="list-style-type: none"><li>• <a href="#">2 ページの「出荷時のデフォルト設定」</a></li></ul>
必須のセットアップ	<ul style="list-style-type: none"><li>• <a href="#">3 ページの「Oracle ILOM に接続する」</a></li><li>• <a href="#">5 ページの「Oracle ILOM にログインする」</a></li><li>• <a href="#">6 ページの「Oracle ILOM に新しいユーザーを追加する」</a></li></ul>
省略可能なセットアップ	<ul style="list-style-type: none"><li>• <a href="#">10 ページの「わかりやすいシステム識別ラベルを設定する」</a></li><li>• <a href="#">11 ページの「デフォルトのネットワーク設定を変更する」</a></li><li>• <a href="#">14 ページの「リモート KVMs を使用してソフトウェアをインストールする」</a></li></ul>
日常的な管理	<ul style="list-style-type: none"><li>• <a href="#">16 ページの「システムステータスの監視と障害を表示する」</a></li><li>• <a href="#">17 ページの「システムコンポーネントの障害状態をクリアする」</a></li><li>• <a href="#">18 ページの「システムイベントログを表示およびクリアする」</a></li><li>• <a href="#">19 ページの「システムの消費電力を監視する」</a></li><li>• <a href="#">20 ページの「SPARC サーバーの電力ポリシーを管理する」</a></li><li>• <a href="#">21 ページの「サーバーコンポーネントの電力割り当てを監視する」</a></li><li>• <a href="#">23 ページの「ブレードシャーシコンポーネントの電力割り当てを監視する」</a></li></ul>
通常の保守	<ul style="list-style-type: none"><li>• <a href="#">24 ページの「ロケータ LED を使用して Oracle Sun サーバーを特定する」</a></li><li>• <a href="#">25 ページの「ホストサーバーの電力状態を管理する」</a></li><li>• <a href="#">27 ページの「Oracle ILOM ファームウェアを更新する」</a></li><li>• <a href="#">29 ページの「Oracle ILOM をリセットする」</a></li></ul>
FAQ	<ul style="list-style-type: none"><li>• <a href="#">29 ページの「初期設定の FAQ」</a></li></ul>

---

# 出荷時のデフォルト設定

表: Oracle ILOM 3.0 の出荷時のデフォルトプロパティ値

プロパティ	デフォルト値	詳細の参照先
IPv4	DHCP が有効、自動 DNS	『日常的な管理 – 概念ガイド』、『Web 手順ガイド』、または『CLI 手順ガイド』の「ネットワーク設定」。
IPv6	ステートレス自動設定が有効、自動 DNS	
IPMI	Enabled	プロトコル管理リファレンスの「IPMI サーバー管理」。
シリアルコンソールポート	有効: シリアルポート 9600、ボー、フローなし	『日常的な管理 – 概念ガイド』の「ネットワークポート」。
SNMP 管理	有効: ポート 161	プロトコル管理リファレンスの「SNMP サーバー管理」。
SNMP サービス状態	Enabled	
SNMP 設定 (書き込み権)	Disabled	
セキュリティー証明書または非公開鍵	なし	『日常的な管理 – Web 手順ガイド』または『CLI 手順ガイド』の「SSL 証明書」。
SSH	Enabled	『日常的な管理 – CLI 手順ガイド』の「セキュアシェル設定を構成する」。
セッションタイムアウト	15	『日常的な管理 – Web 手順ガイド』または『CLI 手順ガイド』の「タイムアウトセッションを設定する」。
SP クロック	GMT	『日常的な管理 – Web 手順ガイド』または『CLI 手順ガイド』の「クロック設定を構成する」。
SMTP クライアント	Enabled	『日常的な管理 – Web 手順ガイド』または『CLI 手順ガイド』の「SMTP クライアント」。
LDAP	Disabled	『日常的な管理 – 概念ガイド』、『Web 手順ガイド』または『CLI 手順ガイド』の「ユーザー管理」。
RADIUS ユーザー	Disabled	
Active Directory	Disabled	
ファクトリー root アカウント	ログイン: root パスワード: changme	6 ページの「Oracle ILOM に新しいユーザーを追加する」

表: Oracle ILOM 3.0 の出荷時のデフォルトプロパティ値 (続き)

プロパティ	デフォルト値	詳細の参照先
Web インタフェースポート	有効なポート: 80、SSL443	『日常的な管理 – 概念ガイド』の「ネットワークポートとプロトコル」。
管理ステーションの Storage Redirection CLI ソケットポート	2121	『リモートリダイレクションコンソール CLI および Web ガイド』の「リモート Storage Redirection」。
消費電力の通知	Disabled	『日常的な管理 – 概念ガイド』、『Web 手順ガイド』、または『CLI 手順ガイド』の「警告管理」。

## 必須のセットアップタスク

- 3 ページの「Oracle ILOM に接続する」
- 5 ページの「Oracle ILOM にログインする」
- 6 ページの「Oracle ILOM に新しいユーザーを追加する」

注 – この節の手順では、Oracle ILOM にアクセスするために必要な必須のセットアップタスクの概要について説明します。このタスクの実行にさらに詳細な説明が必要な場合、「関連情報」に記載されている各ガイドを参照してください。

## ▼ Oracle ILOM に接続する

次のいずれの手順を実行して、Oracle ILOM への物理的な管理接続を確立します。

- ローカルシリアル管理接続 – 手順 1
- ネットワーク管理接続 – 手順 2

### 1. ローカルシリアル管理接続の手順

- コンソール (ワークステーションまたは端末) と、サーバーまたは Sun ブレードシャーシモニタリングモジュール (CMM) の SER MGT ポート間をシリアルケーブルで接続します。

この物理接続で、サービスプロセッサ (SP) との最初の通信が行われます。端末デバイスの通信プロパティを、9600 ボー、8 ビット、パリティなし、1 ストップビットに設定する必要があります。

---

注 – DTE から DTE の通信で送受信の信号が逆方向になる (転向する) 場合、null のモデム構成が必要になります。お使いのシステムに付属するアダプタケーブルを使用して、null モデム構成を実現します。

---

- b. 端末デバイスで Enter キーを押して、端末デバイスと Oracle ILOM SP または CMM との接続を確立します。

## 2. ネットワーク管理接続の手順

- a. ネットワークスイッチと、サーバーまたは CMM の NET MGT ポートをイーサネットケーブルで接続します。

ネットワーク上の IPv4 DHCP サーバーおよび IPv6 ルーターの両方から、Sun サーバー SP または CMM のネットワークアドレスが自動的に認識されます。これらのネットワーク設定を変更する必要がある場合は、[11 ページの「デフォルトのネットワーク設定を変更する」](#)を参照してください。

- b. サーバー SP または CMM に割り当てられている IP アドレスを確認します。

割り当てられている IP アドレスを確認するには、ローカルシリアル管理 (SER MGT) 接続を ILOM SP または CMM に対して確立し、ILOM にログインし、show コマンドを使用して /network および /networkipv6 ターゲットでネットワークプロパティを表示します。

また、ネットワークの DHCP サーバーから IP アドレスを確認することもできます。

### 関連情報

- [29 ページの「初期設定の FAQ」](#)
- [5 ページの「Oracle ILOM にログインする」](#)
- [11 ページの「デフォルトのネットワーク設定を変更する」](#)
- 『Oracle ILOM 3.0 日常的な管理 – 概念』の「ネットワーク管理」
- 『Sun Blade Chassis Modular System 6000 or 6048 Installation』の「ケーブルの接続とシステムへの電源使用」
- Sun サーバーインストールガイドのケーブルの接続とシステムへの電源使用
- Sun x86 サーバーサービスマニュアルの BIOS 設定の構成

## ▼ Oracle ILOM にログインする

Oracle ILOM にログインするには、Oracle ILOM に対して確立した物理管理接続に基づいて、次の手順のいずれかを実行します。

- ローカルシリアル管理接続 – ログイン手順 1
- Web ブラウザベースのネットワーク管理接続 – ログイン手順 2
- コマンドライン SSH ネットワーク管理接続 – ログイン手順 3

---

注 – 次の手順は、最初に ILOM にログインするときに root アカウントを使用するという前提で説明します。このアカウントでは、Oracle ILOM のすべての機能、関数、またはコマンドに対して組み込み型の管理権限 (読み取りおよび書き込み) が提供されます。システムへの承認されていないアクセスを防止するために、搭載された各サービスプロセッサ (SP) またはシャーシ監視モジュール (CMM) で、root アカウントのパスワード (changeme) を変更する必要があります。

---

### 1. ローカルシリアル管理接続 – ログイン手順

- Oracle ILOM のログインプロンプト (->) で、アカウントに root、パスワードに changeme を入力します。

### 2. Web ブラウザベースのネットワーク管理接続 – ログイン手順

- a. Web ブラウザに **http://ILOM\_SP\_or\_CMM\_ipaddress** と入力し、Enter キーを押します。

Oracle ILOM のログインダイアログが表示されます。

- b. ユーザーアカウントに root、パスワードに changeme を使用して Oracle ILOM Web インタフェースにログインします。

Oracle ILOM の Web インタフェースが表示されます。

### 3. コマンドライン SSH ネットワーク管理接続 – ログイン手順

- a. Oracle ILOM CLI に対して SSH セッションを確立するには、端末ウィンドウを開きます。

- b. デフォルトの root アカウントを使用して Oracle ILOM にログインするには、次のようにログインします。

```
$ ssh root@ILOM_SP_or_CMM_ipaddress
```

root パスワードの入力が求められます。

- c. 「Password」のプロンプトで changeme と入力します。

ILOM CLI のプロンプト (->) が表示されます。

## 関連情報

- [3 ページ](#)の「Oracle ILOM に接続する」
- [6 ページ](#)の「Oracle ILOM に新しいユーザーを追加する」
- 『Oracle ILOM 3.0 日常的な管理 – Web による手順』の「ユーザーアカウントの設定」
- 『Oracle ILOM 3.0 日常的な管理 – Web による手順』の「Oracle ILOM のログインとログアウト」
- 『Oracle ILOM 3.0 日常的な管理 – CLI による手順』の「Oracle ILOM のログインとログアウト」

## ▼ Oracle ILOM に新しいユーザーを追加する

### 始める前に

- Oracle ILOM では最大 10 のローカルユーザーを作成できます。  
Active Directory、LDAP、または RADIUS 用に Oracle ILOM を設定する手順については、この手順の後の「関連情報」を参照してください。
- ユーザーアカウントの管理には、CLI、Web インタフェース、SNMP インタフェース、または IPMI インタフェースを使用できます。次の手順では、Web インタフェースと CLI を使用してこのタスクを実行する方法を説明しています。SNMP または IPMI インタフェースを使用してこのタスクを実行する手順については、この手順の後の「関連情報」を参照してください。
- 次の手順は、root ユーザーとして ILOM にログインしている前提で説明します。root ユーザーのログイン手順については、[5 ページ](#)の「Oracle ILOM にログインする」を参照してください。

新しいローカルユーザーアカウントを Oracle ILOM に追加するには、次の手順のいずれかを実行します。

- 新しいローカルユーザーアカウントの追加 – Web による手順 1
  - 新しいローカルユーザーアカウントの追加 – CLI による手順 2
1. 新しいローカルユーザーアカウントの追加 – Web による手順
    - a. Oracle ILOM の Web インタフェースで、「User Management」-->「User Accounts」をクリックします。
    - b. 「Users」テーブルで「Add」をクリックします。  
「Add User」ダイアログが表示されます。

- c. 「Add User」ダイアログでユーザーアカウントの名前と新しいパスワードを指定し、ユーザーの役割プロファイルを選択します。

Oracle ILOM では、Web インタフェースから Administrator、Operator、および Advanced という 3 つのユーザーの役割プロファイルからいずれかを選択できます。各ユーザーの役割プロファイルについては、8 ページの「例: Oracle ILOM ユーザーの役割の説明」を参照してください。

- d. 「Save」をクリックしてユーザーアカウントのプロパティを追加します。

## 2. 新しいローカルユーザーアカウントの追加 – CLI による手順

- a. Oracle ILOM CLI を使用してローカルユーザーアカウントを追加するには、次のように入力します。

```
-> create /SP/users/username password=password
```

たとえば、次のように表示されます。

```
-> create /SP/users/user5
Creating user...
Enter new password: *****
Enter new password again: *****
Created /SP/users/user5
```

- b. 次のコマンドを入力して、ユーザーアカウントに役割を割り当てます。

```
-> set /SP/users/username role=aucr
```

たとえば、次のように表示されます。

すべてのユーザー役割権限に対する読み取りおよび書き込みの権限を **user5** に付与するには、次のように入力します。

```
-> set /SP/users/user5 role=aucro
Set 'role' to 'aucro'
```

---

**注** – **aurco** は、Web インタフェースの Administrator 役割プロファイルのオプションを設定する手順と同等です。

---

Oracle ILOM でサポートされるユーザーの役割と権限の詳細は、後述の 8 ページの「例: Oracle ILOM ユーザーの役割の説明」を参照してください。

---

ユーザーの役割の説明

---

ユーザーの役割プロファイル (Web)

付与されるユーザーの役割プロファイルの権限 (Web)

---

Administrator	<p>選択すると、Oracle ILOM Web インタフェースの Administrator 役割プロファイルは、次のユーザーの役割に対して読み取りおよび書き込み権限を自動的に付与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Admin (a)</li> <li>• User Management (u)</li> <li>• Console (c)</li> <li>• Reset and Host Control (r)</li> <li>• Read only (o)</li> </ul> <p>Administrator 役割プロファイルでサポートされる役割の説明については、この表の「付与されるユーザー役割権限 (CLI)」に記載されているユーザーの役割の定義を参照してください。</p>
Operator	<p>選択すると、Oracle ILOM Web インタフェースの Operator 役割プロファイルは、次のユーザー役割権限を自動的に付与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Console (c)</li> <li>• Reset and Host Control (r)</li> <li>• Read only (o)</li> </ul> <p>Operator 役割プロファイルで付与される役割の説明については、この表の「付与されるユーザー役割権限 (CLI)」に記載されているユーザー役割の定義を参照してください。</p>
Advanced	<p>選択すると、Oracle ILOM Web インタフェースの Advanced 役割プロファイルは、すべての Oracle 機能に対する読み取り専用 (o) 権限を自動的に付与し、必要に応じて次の役割の権限のすべてまたは任意の組み合わせを割り当てることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Admin (a)</li> <li>• User Management (u)</li> <li>• Console (c)</li> <li>• Reset and Host Control (r)</li> <li>• Services (s)</li> </ul> <p>Advanced 役割プロファイルで付与される役割の説明については、この表の「付与されるユーザー役割の権限 (CLI)」に記載されているユーザー役割の定義を参照してください。</p>

---

ユーザー役割 (CLI)

付与されるユーザー役割の権限 (CLI)

---

(a)	<p>Admin (a) – すべての Oracle ILOM システム管理機能について、ユーザーに読み取りおよび書き込み権限が付与されます。ただし、Admin が User Management (u)、Reset and Host Control (r)、Console (c)、および Services (s) というユーザー役割を追加で有効にする必要がある機能は例外です。</p>
(u)	<p>User Management (u) – すべての Oracle ILOM ユーザーアカウント管理機能について読み取りおよび書き込み権限がユーザーに付与されます。</p>

---

---

## ユーザーの役割の説明

---

- (c) Console (c) – リモートコンソールのロックオプションの管理、SP コンソール履歴ログオプションの管理、Oracle ILOM リモートコンソールの起動と使用、Oracle ILOM Storage Redirection CLI の起動と使用というリモートコンソール管理機能を実行できるように、ユーザーに対して読み取りおよび書き込み権限が付与されます。
- (r) Reset and Host Control (r) – 起動デバイス制御のホスト、診断ユーティリティの実行と構成、SP のリセット、CMM のリセット、コンポーネント管理サービス処理、障害管理処理、SPARC TPM 管理処理、および SNMP MIB のダウンロードというリモートホスト管理機能を実行できるように、ユーザーに対して読み取りおよび書き込み権限が付与されます。
- (o) Read-Only (o) – すべての ILOM 構成プロパティの状態を表示できるように、ユーザーに対して読み取り専用権限が付与されます。さらに、自分のユーザーアカウントに対して割り当てられたパスワードとセッションタイムアウトプロパティのみを変更できるように、ユーザーに対して書き込み権限が付与されます。
- (s) Services (s) – オンサイトサービスが必要な場合に Oracle 保守担当者を補助できるように、ユーザーに対して読み取りおよび書き込み権限が付与されます。
- (aucro) バックアップおよび復元の構成機能を実行できるように、これらすべてのユーザー役割 (aucro) を組み合わせて、ユーザーに対して読み取りおよび書き込み権限が付与されます。
- 注 – aucro は、Web インタフェースの Administrator ユーザーの役割プロファイルのオプションを設定する手順と同等です。
- 

## 関連情報

- 『Oracle ILOM 3.0 日常的な管理 – 概念』の「ユーザー管理」
- 『Oracle ILOM 3.0 日常的な管理 – Web による手順』の「Active Directory プロパティの設定」
- 『Oracle ILOM 3.0 日常的な管理 – Web による手順』の「LDAP プロパティの設定」
- 『Oracle ILOM 3.0 日常的な管理 – Web による手順』の「RADIUS プロパティの設定」
- 『Oracle ILOM 3.0 日常的な管理 – CLI による手順』の「ユーザー管理」
- 『Oracle ILOM 3.0 日常的な管理 – CLI による手順』の「Active Directory プロパティの設定」
- 『Oracle ILOM 3.0 日常的な管理 – CLI による手順』の「LDAP プロパティの設定」
- 『Oracle ILOM 3.0 日常的な管理 – CLI による手順』の「RADIUS プロパティの設定」
- 『Oracle ILOM 3.0 プロトコル管理リファレンス』の「SNMP、ユーザー管理」
- 『Oracle ILOM 3.0 プロトコル管理リファレンス』の「SNMP、IPMI の Administrator および Operator 役割」

## 省略可能なセットアップタスク

- 10 ページの「わかりやすいシステム識別ラベルを設定する」
- 11 ページの「デフォルトのネットワーク設定を変更する」
- 14 ページの「リモート KVMS を使用してソフトウェアをインストールする」

---

注 – この節の手順では、Sun サーバーまたは CMM の設定時に必要になる可能性がある省略可能なセットアップタスクの概要について説明します。このタスクの実行にさらに詳細な説明が必要な場合、「関連情報」に記載されている各ガイドを参照してください。

---

### ▼ わかりやすいシステム識別ラベルを設定する

始める前に

- Oracle ILOM で SP システム識別ラベルを設定するには、Admin (a) 役割権限が必要です。

SP ホスト名、SP システム識別子、SP システムの連絡先、および SP システムの場所にわかりやすいシステム識別ラベルを設定するには、Oracle ILOM CLI または Web インタフェースを使用します。

- わかりやすいシステム識別ラベルを設定する – Web による手順 1
- わかりやすいシステム識別ラベルを設定する – CLI による手順 2

#### 1. Web による手順 – わかりやすいシステム識別ラベルを設定する

- a. Web インタフェースからわかりやすいシステム識別ラベルを設定するには、「System Information」->「Identification Information」をクリックします。

「Identification Information」ページが開き、指定するフィールドが表示されます。

- SP Hostname – SP のホスト名を入力します。SP ホスト名は最大 60 文字まで入力できます。先頭には英字を使用します。また、使用できる文字は英数字、ハイフン、およびアンダースコアのみです。
- SP System Identifier – SP のシステム識別子を入力します。システム識別子には、標準的なキーボードの任意のキーを使用したテキスト文字列を使用できます。ただし、引用符は除きます。
- SP System Contact – SP のシステムの連絡先を入力します。システムの連絡先には、標準的なキーボードの任意のキーを使用したテキスト文字列を使用できます。ただし、引用符は除きます。

- SP System Location – SP のシステムの場所を入力します。システムの場所には、標準的なキーボードの任意のキーを使用したテキスト文字列を使用できます。ただし、引用符は除きます。
  - b. 「Save」をクリックして設定を有効にします。
2. CLI による手順 – わかりやすいシステム識別ラベルを設定する
- a. CLI からシステム SP 識別ラベルを表示するには、次のように入力します。

-> **show /SP**

- b. SP の識別ラベルを設定するには、次のように入力します。

- -> **set /SP hostname=text\_string**
- -> **set /SP system\_identifier=text\_string**
- -> **set /SP system\_contact=text\_string**
- -> **set /SP system\_location=text\_string**

コマンド行の各可変部分の内容は次のとおりです。

hostname の *text\_string* の文字数は 60 以下です。また、使用できる文字は英数字、ハイフン、およびアンダースコアです。

system\_identifier の *text\_string* によって、システムの連絡先またはシステムの場所を識別できます。標準的なキーボードの引用符を除くすべてのキーを使用できます。

### 関連情報

- 『Oracle ILOM 3.0 日常的な管理 – Web による手順』の「ホスト名とシステム識別子の割り当て」
- 『Oracle ILOM 3.0 日常的な管理 – CLI による手順』の「ホスト名とシステム識別子の割り当て」

## ▼ デフォルトのネットワーク設定を変更する

### 始める前に

- この手順は、Oracle ILOM サーバー SP または CMM に対してローカルまたはネットワーク管理接続が確立されている前提で説明します。Oracle ILOM に対して物理ローカルまたはネットワーク接続を確立する手順については、[3 ページの「Oracle ILOM に接続する」](#)を参照してください。
- Oracle ILOM は、IPv4 DHCP および IPv6 Stateless のデフォルトネットワーク設定で出荷されています。

IPv4 のネットワークプロパティを DHCP に設定すると、SP または CMM では、DHCP IPv4 サーバーから受信した DHCP 通知メッセージを使用して、DHCP IP アドレスが自動的に設定されます。

IPv6 の自動設定プロパティが `stateless` に設定されている場合、SP または CMM では、IPv6 ルーター通知メッセージを使用して、動的アドレスが自動的に設定されます。さらに、ルート不可能な Link-Local IPv6 アドレスが常に生成されます。これによって、ローカルサブネットから到達可能になります。

---

**注** – IPv6 ネットワーク設定は、Oracle ILOM バージョン 3.0.12 以降、サポートされるようになりました。

---

- Oracle ILOM でネットワーク設定を変更するには、Admin (a) 役割権限が必要です。
- Oracle ILOM でネットワーク設定を変更するには、CLI または Web インタフェースを使用するか、SNMP クライアントを使用します。SNMP クライアントからこのタスクを実行する手順については、この手順の後の「関連情報」を参照してください。

Oracle ILOM でデフォルトのネットワーク設定を変更するには、次の手順のいずれかを実行します。

- デフォルトのネットワーク設定を変更する – Web による手順 1
- デフォルトのネットワーク設定を変更する – CLI による手順 2

#### 1. デフォルトのネットワーク設定を変更する – Web による手順

- a. 「Configuration」 --> 「Network」をクリックします。
- b. 静的な IPv4 アドレスを割り当てるには、「Static IP」ラジオボタンをオンにし、静的 IPv4 アドレス、サブネットマスク、およびゲートウェイのアドレスを指定します。
- c. IPv6 ネットワークオプションを変更するには、次のいずれかまたは両方を実行します。
  - **Autoconfig オプション:** IPv6 autoconfig オプションに関連するチェックボックスをオンまたはオフにします。
  - **Static IP Address:** 「Static IP Address」テキストボックスに、次の入力パラメータを入力し、IPv6 アドレスとサブネットマスクアドレスを指定します。  
<IPv6\_address>/<サブネットマスク長 (ビット単位)>  
例: fec0:a:8:b7:214:4fff:feca:5f7e/64
- d. 「Save」をクリックして変更を適用します。

## 2. デフォルトのネットワーク設定を変更する – CLI による手順

- a. デフォルトの IPv4 dhcp プロパティを変更し、静的 IPv4 アドレスのプロパティ値を設定するには、次のように入力します。

```
-> set /SP/network pendingipdiscovery=static  
pendingipaddress=<IPv4_address> pendingipgateway=<gateway_address>  
pendingipnetmask=<netmask_address>
```

- b. デフォルトの IPv6 autoconfig=stateless プロパティを変更するには、/network/ipv6 ターゲットに移動し、次のいずれかまたは両方を実行します。

- デフォルトの autoconfig=stateless プロパティ値を変更するには、次のように入力します。

```
-> set autoconfig=<property value>
```

*property value* には、stateless stateless\_only、dhcpv6\_stateless、dhcpv6\_stateful、または disable のいずれかを指定できます。

- 静的 IPv6 アドレスを割り当てるには、次のように入力します。

```
-> set pendingipdiscovery=<IPv6 address>/<subnet mask length in bits>
```

例:

```
-> set pendingipdiscovery=fec0:a:8:b7:214:4fff:feca:5f7e/64
```

- c. static の IPv4 または IPv6 プロパティの変更を保存するには、/network ターゲットに移動し、次のように入力します。

```
-> set commitpending=true
```

### 関連情報

- [29 ページの「初期設定の FAQ」](#)
- 『Oracle ILOM 3.0 日常的な管理 – 概念』の「Oracle ILOM の通信設定」
- 『Oracle ILOM 3.0 日常的な管理 – Web による手順』の「Oracle ILOM の通信設定」
- 『Oracle ILOM 3.0 日常的な管理 – CLI による手順』の「ネットワーク設定」
- 『Oracle ILOM 3.0 プロトコル管理リファレンス』の「ネットワーク設定の構成」

## ▼ リモート KVMS を使用してソフトウェアをインストールする

### 始める前に

- Oracle ILOM リモートコンソールは Web インタフェースから利用できます。また、このコンソールには、キーボード、ビデオ、マウス、およびストレージというデバイスのリモートリダイレクション機能があります。

Oracle ILOM でストレージデバイスをリダイレクトする代替の方法として、Oracle ILOM Storage Redirection CLI を使用できます。この機能を使用する手順については、この手順の後の「関連情報」を参照してください。

- Oracle ILOM リモートコンソールを操作するには、Console (c) 役割権限が必要です。
- ローカルシステムに Java Runtime Environment (1.5 以降) がインストールされている必要があります。

Web インタフェースを使用して Oracle ILOM リモートコンソールを起動するには、次の手順に従います。

1. Oracle ILOM のデフォルトの KVMS 設定が使用しているデスクトップ環境と一致することを確認するには、次の手順を実行します。
  - a. Web インタフェースで、「Remote Control」 --> 「KVMS」をクリックします。
  - b. KVMS ページで、ビデオリダイレクションの状態を有効にしてから、適切なマウスモードオプション (absolute または relative) が有効であることを確認します。

最適なパフォーマンスのために、通常は Oracle Solaris ベースのオペレーティングシステムには absolute モードを選択し、Linux ベースのオペレーティングシステムには relative モードを選択します。

ヒント - 管理サーバーとローカルデスクトップの間でキーボードまたはマウスの入力を切り替えるには、**alt-m** (マウスの場合) または **alt-k** (キーボードの場合) というキーシーケンスのいずれかを使用します。
2. Windows Internet Explorer (IE) Web ブラウザを使用している場合、ローカルシステムに 32 ビット JDK ファイルを登録してから、Oracle ILOM リモートコンソールを起動します。
  - a. Windows エクスプローラダイアログで、「ツール」 --> 「フォルダオプション」をクリックし、「ファイルの種類」タブをクリックします。
  - b. JNLP ファイルを選択し、場所を参照して「OK」をクリックします。

3. Oracle ILOM リモートコンソールを起動するには、「Remote Control」 --> 「Redirection」 --> 「Launch Remote Console」をクリックします。

Oracle ILOM リモートコンソールで使用できるリダイレクションオプションの使用方の詳細は、『Oracle ILOM 3.0 リモートリダイレクションコンソールガイド』を参照してください。

#### 関連情報

- 『Oracle ILOM 3.0 リモートリダイレクションコンソール』の「概要」
- 『Oracle ILOM 3.0 リモートリダイレクションコンソール』の「Oracle ILOM リモートコンソールの初期設定」
- 『Oracle ILOM 3.0 リモートリダイレクションコンソール』の「Oracle ILOM リモートコンソールのリダイレクションの起動」
- 『Oracle ILOM 3.0 リモートリダイレクションコンソール』の「Oracle ILOM Storage Redirection CLI を使用したストレージデバイスのリダイレクト」

---

## 日常的な管理タスク

- [16 ページ](#)の「システムステータスの監視と障害を表示する」
- [17 ページ](#)の「システムコンポーネントの障害状態をクリアする」
- [18 ページ](#)の「システムイベントログを表示およびクリアする」
- [19 ページ](#)の「システムの消費電力を監視する」
- [20 ページ](#)の「SPARC サーバーの電力ポリシーを管理する」
- [21 ページ](#)の「サーバーコンポーネントの電力割り当てを監視する」
- [23 ページ](#)の「ブレードシャーシコンポーネントの電力割り当てを監視する」

---

注 – この節の手順では、システムのセットアップ後に Oracle ILOM から実行する可能性がある日常的な管理タスクの一部について概要を説明します。このタスクの実行にさらに詳細な説明が必要な場合、「関連情報」に記載されている各ガイドを参照してください。

---

## ▼ システムステータスの監視と障害を表示する

システムの状態を監視し、障害を表示するには、Oracle ILOM CLI または Web インタフェースを使用できます。

- システムステータスの監視と障害の表示 – Web による手順 1
- システムステータスの監視と障害の表示 – CLI による手順 1

### 1. Web による手順 – システムステータスの監視と障害の表示

- a. システムステータスを監視するには、「System Information」-->「Overview」をクリックします。  
「System Status」フィールドで、システムの現在の状態を判断します。
- b. Oracle ILOM によって障害が検出されたシステムコンポーネントのリストを表示するには、「System Information」-->「Fault Management」をクリックします。

---

注 – システムコンポーネントで障害状態が検出された場合にのみ、このリストは生成されます。

---

### 2. CLI による手順 – システムステータスの監視と障害の表示

- a. サーバー SP からシステムの障害状態を監視するには、次のように入力します。  
-> **show /SYS fault\_state**  
「Properties」の下にある **fault\_state** ステータスを確認します。
- b. 障害が発生したシステムターゲット、プロパティ、および値を表形式の出力で表示するには、次のように入力します。  
-> **show faulty**

### 関連情報

- 『Oracle ILOM 3.0 日常的な管理 – CLI による手順』の「システムの監視」
- 『Oracle ILOM 3.0 プロトコル管理リファレンス』の「システムセンサー、インジケータ、およびイベントログ (SNMP) の監視」

## ▼ システムコンポーネントの障害状態をクリアする

インストールを開始する前に

- 障害が発生したコンポーネントのステータスをクリアするには、Reset and Host Control (r) 役割権限が必要です。

障害が発生したコンポーネントの状態をクリアするには、Oracle ILOM CLI または Web インタフェースを使用できます。

- システムコンポーネントの障害をクリアする – Web による手順 1
- システムコンポーネントの障害をクリアする – CLI による手順 2

### 1. Web 手順 – システムコンポーネントの障害をクリアする

(障害が発生したコンポーネントの修正または交換後に) Web インタフェースで障害が発生したコンポーネントの状態をクリアするには、次の手順を実行します。

- a. 「System Information」 --> 「Component」 をクリックします。
- b. 障害が発生したコンポーネントの横のラジオボタンを選択し、「Clear Faults」 をクリックします。

### 2. CLI 手順 – システムコンポーネントの障害をクリアする

- a. (障害が発生したコンポーネントの修正または交換後に) 障害が発生したコンポーネントの状態をクリアするには、次のように入力します。

```
-> set component_path clear_fault_action=true
Are you sure you want to clear component_path (y/n)? y
Set 'clear_fault_action' to 'true'
```

*component\_path* は、障害が発生した次のいずれかのコンポーネントです。

- Host CPU (/SYS/MB/P#)
- Memory Riser (/SYS/MB/P0/MR#)
- DIMM (/SYS/MB/P0/MR0/D#)
- Motherboard (/SYS/MB)
- Fan module (/SYS/FM#)
- Power supply (/SYS/PS#)
- CMM (/CH/CMM)
- NEM (/CH/NEM#)
- PCI card (SYS/MB/PCIE#)

たとえば、ホスト CPU の障害をクリアするには、次のように入力します。

```
-> set /SYS/MB/P0 clear_fault_action=true
Are you sure you want to clear /SYS/MB/P0 (y/n)? y
Set 'clear_fault_action' to 'true'
```

### 関連情報

- 『Oracle ILOM 3.0 日常的な管理 – CLI による手順』の「Oracle ILOM で検出された障害のクリア」
- 『Oracle ILOM 3.0 日常的な管理 – Web による手順』の「Oracle ILOM で検出された障害のクリア」

## ▼ システムイベントログを表示およびクリアする

### 始める前に

- イベントログを修正するには、Admin (a) 役割権限が必要です。

システムイベントログを表示およびクリアするには、Oracle ILOM CLI または Web インタフェースを使用できます。

- システムイベントログを表示およびクリアする – Web による手順 1
- システムイベントログを表示およびクリアする – CLI による手順 2

#### 1. Web による手順 – システムイベントログを表示およびクリアする

- a. Web インタフェースでシステムイベントログを表示するには、「System Monitoring」->「Event Log」をクリックします。

テーブルの上部および下部にあるページナビゲーションコントロールを使用して、テーブル内の使用可能なデータを移動します。

- b. すべてのシステムイベントログのエントリをクリアするには、「Clear Log」ボタンをクリックします。

確認のダイアログが表示されます。確認ダイアログで「OK」をクリックすると、エントリがクリアされます。

#### 2. CLI による手順 – システムイベントログを表示およびクリアする

- a. CLI からシステムイベントログのエントリを表示するには、次のように入力します。

```
-> show /SP/logs/event/list
```

- b. すべてのシステムイベントログのエントリをクリアするには、次のように入力します。

```
-> set /SP/logs/event clear=true
```

## 関連情報

- 『Oracle ILOM 3.0 Web による手順』の「Oracle ILOM イベントログの表示およびクリア」
- 『Oracle ILOM 3.0 CLI による手順』の「Oracle ILOM イベントログのスクロール、終了、およびクリア」
- 『Oracle ILOM 3.0 プロトコル管理リファレンス』の「Oracle ILOM イベントログの表示およびクリア」

## ▼ システムの消費電力を監視する

### 始める前に

- 次の手順は、サーバー SP で ILOM 3.0.8 以降が実行されているか、CMM で ILOM 3.0.10 以降が実行されている前提で説明します。
- システムの消費電力は、Web インタフェース、CLI、または SNMP インタフェースから監視できます。SNMP クライアントからこのタスクを実行する手順については、この手順の後の「関連情報」を参照してください。

CLI または Web インタフェースからシステムの消費電力を監視するには、次の手順のいずれかを実行します。

- システムの消費電力を監視する – Web による手順 1
- システムの消費電力を監視する – CLI による手順 2

### 1. Web による手順 – システムの消費電力を監視する

- a. Oracle ILOM SP または Oracle ILOM CMM の Web インタフェースで、「Power Management」-->「Power Consumption」をクリックします。
- b. 「Power Consumption」ページで、実際の電力、ターゲットの制限、および許容されているピークというシステムの電力に関するメトリックを表示します。

---

注 – 電力の監視機能は、この機能のサーバープラットフォームへの実装によって異なります。プラットフォーム固有の電力管理操作の詳細は、プラットフォーム固有の Oracle ILOM 補足またはプラットフォーム管理ガイドを参照してください。

---

### 2. CLI による手順 – システムの消費電力を監視する

- a. CLI からシステムの消費電力の合計を表示するには、次のいずれかを入力します。
  - サービス SP から:  
-> **show /SP/powermgmt actual\_power**
  - または  
-> **show /SYS/VPS**

- CMM から:  
-> `show /CH/powermgt actual_power`  
または  
-> `show /CH/VPS`

#### 関連情報

- 『Oracle ILOM 3.0 概念』の「電力管理」
- 『Oracle ILOM 3.0 Web による手順』の「消費電力の監視」
- 『Oracle ILOM 3.0 CLI による手順』の「消費電力の監視」
- 『Oracle ILOM 3.0 プロトコル管理リファレンス』の「消費電力の監視」

## ▼ SPARC サーバーの電力ポリシーを管理する

#### 始める前に

- 次の手順は、SPARC サーバー SP で ILOM バージョン 3.0.8 以降が実行されている前提で説明します。
- Oracle ILOM で電力ポリシー設定を変更するには、Admin (a) 役割権限が必要です。
- SPARC サーバーの電力ポリシーは、Web インタフェース、CLI、または SNMP インタフェースから管理できます。SNMP クライアントからこのタスクを実行する手順については、この手順の後の「関連情報」を参照してください。

CLI または Web インタフェースから SPARC サーバーの電力ポリシーを管理するには、次の手順のいずれかを実行します。

- SPARC サーバーの電力ポリシーを管理する – Web による手順 1
- SPARC サーバーの電力ポリシーを管理する – CLI による手順 2

#### 1. Web による手順 – SPARC サーバーの電力ポリシーを管理する

- a. Oracle ILOM SPARC サーバー SP で、「Power Management」-->「Settings」をクリックします。  
「Power Management」ページが表示されます。
- b. 「Power Policy」リストボックスで、「Performance」または「Elastic」を選択します。
  - **Performance** – 使用可能な電力のすべてをこのシステムに使用できます。
  - **Elastic** – システムの電力使用量は、現在の利用率のレベルに合わせて変化します。たとえば、作業負荷が変動した場合でも、相対利用率が常に 70% で保持されるように、システムコンポーネントに供給する電力を増減します。
- c. 「Save」をクリックして、「Power Policy」設定を保存します。

## 2. CLI による手順 – SPARC サーバーの電力ポリシーを管理する

- a. SPARC サーバー SP に設定されている現在の電力ポリシーのプロパティ値を表示するには、次のように入力します。

```
-> show /SP/powermgmt policy
```

- b. SPARC サーバー SP に設定されている電力ポリシーのプロパティ値を表示するには、次のように入力します。

```
-> set /SP/powermgmt policy=Performance|Elastic
```

### 関連情報

- 『Oracle ILOM 3.0 概念』の「電力管理」
- 『Oracle ILOM 3.0 Web による手順』の「電力ポリシーの設定」
- 『Oracle ILOM 3.0 CLI による手順』の「電力ポリシーの設定」
- 『Oracle ILOM 3.0 プロトコル管理リファレンス』の「電力ポリシーの設定」

## ▼ サーバーコンポーネントの電力割り当てを監視する

### インストールを開始する前に

- 次の手順は、サーバーで ILOM バージョン 3.0.8 以降が実行されている前提で説明します。
- サーバーコンポーネントの電力割り当ては、Web インタフェース、CLI、または SNMP インタフェースから監視できます。SNMP クライアントからこのタスクを実行する手順については、この手順の後の「関連情報」を参照してください。

Web インタフェースまたは CLI から Oracle Sun サーバーの電力割り当てを監視するには、次の手順を実行します。

- サーバーコンポーネントの電力割り当てを監視する – Web による手順 1
- サーバーコンポーネントの電力割り当てを監視する – CLI による手順 2

### 1. Web による手順 – サーバーコンポーネントの電力割り当てを監視する

- a. Oracle ILOM SP の Web インタフェースで、「Power Management」--> 「Allocations」をクリックします。

「Power Allocation Plan」ページが表示されます。

- b. 電力割り当てテーブルで、電力容量計画用の次のシステム電力要件を表示します。
  - **System Power Map** – 「System Power Map」テーブルの情報は、システム電力プロパティ「Allocated Power」、「Installed Hardware Minimum」、「Peak Permitted Power」、および「Target Limit」に割り当てられた電力の合計を示す値 (ワット単位) を反映しています。
  - **Per Component Power Map** – 「Component Power Map」テーブルの情報は、サーバーコンポーネントカテゴリ (メモリーなど) およびサーバーコンポーネント (ME\_PO\_D0 など) ごとに割り当てられた電力を示す値 (ワット単位) を反映しています。また、割り当てられた電力値を制限できるかどうかも示します。

## 2. CLI による手順 – サーバーコンポーネントの電力割り当てを監視する

- a. システム内のすべてのコンポーネントに割り当てられた電力の合計を表示するには、次のように入力します。
  - x86 サーバー SP から:  
-> **show /SP/powermgmt/budget**
  - SPARC サーバー SP から:  
-> **show /SP/powermgmt allocated\_power**
- b. コンポーネントカテゴリ (ファン、CPU など) に割り当てられた電力を表示するには、次のように入力します。
  - x86 サーバー SP から:  
-> **show /SP/powermgmt/powerconf/component\_type/component\_name**
  - SPARC サーバー SP から:  
-> **show /SP/powermgmt/powerconf/component\_type/component\_name**

*component\_type* はコンポーネントカテゴリの名前です。*component\_name* はコンポーネントの名前です。

### 関連情報

- 『Oracle ILOM 3.0 概念』の「電力管理」
- 『Oracle ILOM 3.0 Web による手順』の「コンポーネントの電力割り当ての監視」
- 『Oracle ILOM 3.0 CLI による手順』の「コンポーネントの電力割り当ての監視」

## ▼ ブレードシャーシコンポーネントの電力割り当てを監視する

インストールを開始する前に

- 次の手順は、CMM で ILOM バージョン 3.0.10 以降が実行されている前提で説明します。
- CMM の電力割り当ては、Web インタフェースまたは CLI から監視できます。このタスクの詳細情報については、この手順の後の「関連情報」を参照してください。

CMM からサーバーの電力割り当てを監視するには、次の手順のいずれかを実行します。

- ブレードシャーシコンポーネントの電力割り当てを監視する – Web による手順 1
- ブレードシャーシコンポーネントの電力割り当てを監視する – CLI による手順 2

### 1. Web による手順 – ブレードシャーシコンポーネントの電力割り当てを監視する

- a. Oracle ILOM CMM の Web インタフェースで、「Power Management」 --> 「Allocation」をクリックします。

CMM の「Power Allocation Plan」ページが表示されます。

- b. 割り当て電力のテーブルで、許容可能電力、制限の許容、許容されている電力に関する CMM の電力割り当て値を表示します。

### 2. CLI による手順 – ブレードシャーシコンポーネントの電力割り当てを監視する

- a. すべてのシャーシシステムコンポーネントに割り当てられた電力の合計を表示するには、次のように入力します。

```
-> show /CMM/powermgmt grantable_power
```

- b. ブレードスロットに割り当てられる残存電力を表示するには、次のように入力します。

```
-> show /CMM/powermgmt allocated_power
```

- c. CMM コンポーネントカテゴリ (ファン、ブレードのスロットなど) に割り当てられた電力の合計を表示するには、次のように入力します。

```
-> show /CMM/powermgmt/powerconf/component_type
```

*component\_type* は、コンポーネントカテゴリの名前です。

- d. すべてのブレードスロットに許容された電力の合計、またはすべての自動送電式 I/O ブレードスロットに予約された電力の合計を表示するには、次のように入力します。

```
-> show /CMM/powermgmt/powerconf/bladeslots
```

すべてのシャーシブレードのスロットに割り当てられた *granted\_power* value および *reserved\_power* 値が表示されます。

- e. 個別のブレードに許容された電力の合計、またはブレードに対して設定された許可制限値を表示するには、次のように入力します。

```
-> show /CMM/powermgmt/powerconf/bladeslot/BL#
```

*n* は、ブレードのスロット位置を表します。

#### 関連情報

- 『Oracle ILOM 3.0 概念』の「電力管理の監視」
- 『Oracle ILOM 3.0 Web による手順』の「コンポーネントの電力割り当ての監視」
- 『Oracle ILOM 3.0 CLI による手順』の「コンポーネントの電力割り当ての監視」

---

## 通常保守タスク

- [24 ページの「ロケータ LED を使用して Oracle Sun サーバーを特定する」](#)
- [25 ページの「ホストサーバーの電力状態を管理する」](#)
- [27 ページの「Oracle ILOM ファームウェアを更新する」](#)
- [29 ページの「Oracle ILOM をリセットする」](#)

---

注 – この節の手順では、システムのセットアップ後に、場合によっては Oracle ILOM から実行する必要がある保守タスクの一部について概要を説明します。このタスクの実行にさらに詳細な説明が必要な場合、「関連情報」に記載されている各ガイドを参照してください。

---

## ▼ ロケータ LED を使用して Oracle Sun サーバーを特定する

#### 始める前に

- Oracle ILOM でシステムインジケータ設定を変更するには、User Management (u) 役割権限が必要です。

データセンターに多数あるサーバーから特定の Oracle Sun サーバーを特定するには、Oracle ILOM または Web インタフェースを使用して、通常は Oracle Sun サーバーの正面および背面パネルの両方にあるロケータ LED を点灯します。

- ロケータ LED を有効または無効にする – Web による手順 1
- ロケータ LED を有効または無効にする – CLI による手順 2

1. Web による手順 – ロケータ LED を有効または無効にする
  - a. Web インタフェースページで、「System Monitoring」 --> 「Indicators」をクリックします。
  - b. 「Actions」リストボックスで「Name: Locate」をクリックします。
  - c. ロケータ LED を点灯するには、/SYS/LOCATE の横のラジオボタンを選択し、「Set LED to Fast Blink」をクリックします。
  - d. ロケータ LED を無効にするには、/SYS/LOCATE の横のラジオボタンを選択し、「Turn LED Off」をクリックします。
2. CLI による手順 – ロケータ LED を有効または無効にする
  - サーバー SP からロケータ LED を点灯するには、次のように入力します。  
-> **set /SYS/LOCATE value=fast\_blink**
  - サーバー SP からロケータ LED を無効にするには、次のように入力します。  
-> **set /SYS/LOCATE value=off**

#### 関連情報

- 『Oracle ILOM 3.0 日常的な管理 – Web による手順』の「システムセンサーおよびインジケータ」
- 『Oracle ILOM 3.0 日常的な管理 – CLI による手順』の「システムセンサーおよびインジケータ」
- 『Oracle ILOM 3.0 プロトコル管理リファレンス』の「システムセンサー、インジケータ、およびイベントログ (SNMP) の監視」

## ▼ ホストサーバーの電力状態を管理する

#### 始める前に

- ホストサーバーの電力状態をリセットするには、Admin (a) 役割権限が必要です。
- ホストの電力状態は、ラックマウントサーバー SP、ブレードサーバー SP、または CMM から管理できます。次の手順では、ラックマウントサーバー SP からホストサーバーの電力状態を管理する方法について説明します。

CMM またはブレードサーバー SP からこのタスクを実行する手順については、この手順の後の「関連情報」を参照してください。

ラックマウントサーバー SP からホストサーバーの電力状態を管理するには、Oracle ILOM CLI または Web インタフェースを使用できます。

- ホストサーバーの電力状態を管理する – Web による手順 1
- ホストサーバーの電力状態を管理する – CLI による手順 2

## 1. Web による手順 – ホストサーバーの電力状態を管理する

- a. Web インタフェースで、「Remote Control」 --> 「Remote Power Control」をクリックします。
- b. 「Actions」リストボックスで、次に示すホストの電力状態のいずれかを選択します。
  - Reset – リモートホストサーバーを再起動します。
  - Immediate Power Off – リモートホストサーバーの電源をただちに切断します。
  - Graceful Shutdown and Power Off – リモートホストサーバーの電源を切る前に OS を正常に停止します。
  - Power On (デフォルト設定) – リモートホストサーバーの電源を投入します。
  - Power Cycle – リモートホストサーバーの電源を切断し、そのあとでリモートホストサーバーの電源を投入します。

## 2. CLI による手順 – ホストサーバーの電力状態を管理する

- Reset – ホストサーバーの電力状態を再起動するには、次のように入力します。  
-> **reset /SYS**
- Immediate Power Off – リモートホストサーバーの電源をただちに切断するには、次のように入力します。  
-> **stop -force /SYS**
- Graceful Shutdown and Power Off – リモートホストサーバーの電源を切断する前に OS を正常に停止するには、次のように入力します。  
-> **stop /SYS**
- Power On (デフォルト設定) – リモートホストサーバーの電源を投入するには、次のように入力します。  
-> **start /SYS**

### 関連情報

- 『Oracle ILOM 3.0 日常的な管理 – CLI による手順』の「リモートの電力状態コマンドの発行」
- 『Oracle ILOM 3.0 日常的な管理 – Web による手順』の「ホストサーバーの電力状態の管理」
- 『Oracle ILOM 3.0 日常的な管理 – 概念』の「リモートの電力制御」

## ▼ Oracle ILOM ファームウェアを更新する

### 始める前に

- プラットフォームによっては、サーバー SP のファームウェアを変更する前に、ホストオペレーティングシステムを停止する必要があります。
- Oracle Sun サーバーまたは CMM のファームウェアを更新するには、Admin (a) 役割権限が必要です。
- ファームウェアの更新プロセスは、Web インタフェース、CLI、または SNMP クライアントから開始できます。さらに、ILOM 3.0.10 以降では、モジュラーシステムシャーシコンポーネント全体のファームウェア更新を管理する新機能を使用できます。

この節の手順では、Web インタフェースおよび CLI からファームウェアの更新プロセスを開始する方法について説明します。SNMP クライアントを使用してこのタスクを実行する手順、またはモジュラーシャーシシステム全体のファームウェア更新を管理する手順については、この手順の後の「関連情報」を参照してください。

- ファームウェアの更新プロセスの完了には、数分かかります。この間、ほかの Oracle ILOM タスクを実行しないでください。ファームウェアの更新が完了すると、システムが再起動します。

Web インタフェースまたは CLI からファームウェアの更新プロセスを開始するには、次の手順を実行します。

1. サーバー SP または CMM に現在インストールされているファームウェアバージョンを確認します。
  - Web インタフェースで、「System Information」-->「Versions」をクリックします。
  - CLI の場合、コマンドプロンプトで `version` と入力します。

インストールされている Oracle ILOM ファームウェアバージョンを特定するために使用される番号方式の詳細は、[viii ページの「Oracle ILOM 3.0 ファームウェアのバージョン番号方式」](#)を参照してください。
2. 新しい Web ブラウザのタブまたはウィンドウを開き、次のサイトに移動して Oracle ILOM ファームウェアイメージをダウンロードします。  
[\(http://support.oracle.com/\)](http://support.oracle.com/)  
「My Oracle Support」Web サイトからソフトウェアの更新をダウンロードする方法の詳細は、[vii ページの「製品のダウンロード」](#)を参照してください。

---

**注** – 一般的に、システムのファームウェアは以前のリリースに更新しないでください。ただし、システムで以前のバージョンのファームウェアを実行する必要があると判断した場合は、ダウンロード可能な以前の任意のファームウェアリリースにファームウェアを更新できます。

---

3. TFTP、FTP、HTTP、HTTPS のプロトコルのいずれかをサポートするサーバーにファームウェアイメージを配置します。
  - Web インタフェースで更新する場合は、Oracle ILOM Web ブラウザが動作しているシステムにイメージをコピーします。
  - CLI による更新の場合、ネットワークからアクセスできるサーバーにイメージをコピーします。
4. Oracle ILOM Web インタフェースを使用して Oracle ILOM ファームウェアイメージを更新するには、「Maintenance」-->「Firmware Upgrade」をクリックし、「Enter Upgrade Mode」をクリックします。

ファームウェアの更新ダイアログの使用の詳細な手順については、『Oracle ILOM 3.0 保守と診断 – CLI および Web ガイド』の「Oracle ILOM ファームウェアの更新 (Web)」を参照してください。
5. Oracle ILOM CLI から Oracle ILOM ファームウェアイメージを更新するには、次のように入力します。

```
-> load -source <supported_protocol>://<server_ip>/<path_to_firmware_image>/<filename.xxx>
```

CLI ファームウェアの更新プロンプトの使用の詳細な手順については、『Oracle ILOM 3.0 保守と診断 – CLI および Web ガイド』の「Oracle ILOM ファームウェアの更新 (CLI)」を参照してください。
6. システムの再起動後に、適切なファームウェアバージョンがインストールされたことを確認します。

#### 関連情報

- 『Oracle ILOM 3.0 保守と診断』の「Oracle ILOM ファームウェアの更新 (Web および CLI)」
- 『Oracle ILOM 3.0 保守と診断』の「ファームウェア更新プロセス中のネットワーク障害からの回復」
- 『Oracle ILOM 3.0 プロトコル管理』の「Oracle ILOM ファームウェア (SNMP) の更新」
- 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) CMM Administration』の「ファームウェアの更新」

## ▼ Oracle ILOM をリセットする

始める前に

- サーバー SP をリセットするには、Reset and Host Control (r) 役割権限が必要です。

---

注 – Oracle ILOM サービスプロセッサ (SP) のリセットが必要な場合は、ホスト OS に影響を与えずにリセットできます。ただし、SP をリセットすると、現在の Oracle ILOM セッションが切断され、リセット中は SP が管理不可能な状態になります。

---

Web インタフェースまたは CLI を使用して Oracle ILOM SP をリセットするには、次の手順を実行します。

1. Web インタフェースから Oracle ILOM サーバー SP をリセットするには、「Maintenance」 --> 「Reset SP」 --> 「Reset SP」をクリックします。
2. CLI から Oracle ILOM サーバー SP をリセットするには、次のように入力します。  
-> **reset /SP**

関連情報

- 『Oracle ILOM 3.0 日常的な管理 – CLI による手順』の「Oracle ILOM SP のリセット」
- 『Oracle ILOM 3.0 日常的な管理 – Web による手順』の「Oracle ILOM SP のリセット」

---

## 初期設定の FAQ

Oracle ILOM service processor (SP) は自動的に起動しますか。

The Oracle ILOM service processor は、電源ケーブルが Oracle Sun サーバーまたは CMM に接続されたときに自動的に起動します。電源ケーブルをシステムシャーシまたはラックマウントサーバーに接続する方法の詳細は、ラックマウントサーバーまたはシステムシャーシに付属している設置ドキュメントを参照してください。

デフォルトのユーザーアカウントパスワードは Oracle ILOM に設定されていますか。

Oracle ILOM は、root ユーザーアカウントおよびパスワードが事前に設定された状態で出荷されています。初めてログインし、ユーザーアカウントを設定する際には、この事前に設定されたアカウントを使用します。

システムに対する不正アクセスを防止するために、搭載された各サービスプロセッサ (SP) またはシャーシ監視モジュール (CMM) で、事前に設定された root アカウントのパスワードを変更する必要があります。

**Oracle ILOM で使用できる IPv4 および IPv6 ネットワークアドレスはどのような形式ですか。**

ILOM がデュアルスタックネットワーク環境で動作している場合は、IPv4 または IPv6 のいずれかのアドレス形式を使用して `system_ipaddress` を入力できます。

たとえば、次のように表示されます。

- IPv4 の場合: 10.8.183.106
- または
- IPv6 の場合: [fec0:a:8:b7:214:4fff:5eca:5f7e/64]

詳細は、『Oracle ILOM 3.0 日常的な管理 – 概念ガイド』のデュアルスタック IPv4 および IPv6 ネットワーク設定に関するトピックを参照してください。

**Oracle ILOM に出荷時のデフォルト設定はありますか。**

ほとんどの Oracle ILOM システム管理機能について、出荷時のデフォルト設定があります。このデフォルト設定を使用するか、要件に合わせてカスタマイズすることができます。Oracle ILOM 3.0 に設定されている出荷時のデフォルト設定のリストについては、[2 ページの「出荷時のデフォルト設定」](#)を参照してください。

**どの Oracle ILOM ユーザーインターフェースを使用する必要がありますか。**

すべての Oracle ILOM の機能および関数は、Web インタフェースおよびコマンドラインインタフェース (CLI) から使用できます。Oracle ILOM の機能および関数の一部は、SNMP インタフェース、IPMI インタフェース、および CIM WS-Management インタフェースからも使用できます。SNMP、IPMI、および CIM WS-Management からサポートされる Oracle ILOM の詳細は、『Oracle ILOM 3.0 プロトコル管理リファレンス』を参照してください。

**Oracle ILOM に対するネットワーク管理接続を確立できません**

Oracle ILOM に対する接続に問題が発生している場合、接続の問題を解決するには、次の解決案を参照してください。

- サーバーまたは CMM のネットワークと NET MGT ポート間に、物理的なイーサネット接続が確立していることを確認します。
- Oracle ILOM に対するローカル (ネットワークを介さない) 接続で、デュアルスタックネットワーク環境について、IPv4 の状態が有効か、IPv4 および IPv6 の両方の状態が有効かを確認します。
- Ping のようなコマンドラインネットワークツールを使用して、ネットワークへの接続を確認します。
- IPv6 管理接続の場合、URL の IPv6 アドレスを角括弧で囲みます。

たとえば、次のように表示されます。

- Web インタフェースの URL:  
`https://[fe80::221:28ff:fe77:1402]`
- CLI ダウンロードファイルの URL:  
-> **load -source** `tftp://[fec0:a:8:b7:214:rfff:fe01:851d]desktop.pkg`

**root** ユーザーアカウントを誤って事前に削除した場合、再作成する方法を教えてください。

**root** ユーザーアカウントの再作成またはアカウントのパスワードの復元には、Oracle ILOM に用意されている **default** アカウントを使用します。

**default** ユーザーアカウントを使用して Oracle ILOM にログインする手順については、『Oracle ILOM 3.0 日常的な管理 – CLI 手順ガイド』でパスワードの復元に関するトピックを参照してください。

**Oracle ILOM 3.0** にはどのような新機能がありますか。

『Oracle ILOM 3.0 機能更新およびリリースノート』には、各 Oracle ILOM 3.0 ファームウェアのポイントリリースについて新しい機能の更新内容が説明されています。

## 関連情報

- 『Oracle ILOM 3.0 日常的な管理 – 概念』
- 『Oracle ILOM 3.0 日常的な管理 – Web による手順』
- 『Oracle ILOM 3.0 日常的な管理 – CLI による手順』
- 『Oracle ILOM 3.0 リモートリダイレクションコンソール – Web および CLI』
- 『Oracle ILOM 3.0 保守と診断 – Web および CLI』
- 『Oracle ILOM 3.0 SNMP、IPMI、CIM、WS-Man プロトコル管理リファレンス』
- 『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) CMM 管理』
- Oracle ILOM 3.0 機能更新およびリリースノート

